

平成19年度 飯舘村地域包括支援センター事業報告

1. 総合相談業務

地域の高齢者が、住みなれた地域で安心し、その人らしい生活を継続していくことができるようにするため、どのような支援が必要かを把握し、地域における適切なサービス、機関又は制度の利用に上げる等の支援を行うことを目指し活動しております。

(1) 地域へのPR

① PR方法

冊子を全戸配布（時期：5月に回覧で「介護予防でいつまでも元気に」を配布。）

② 地域高齢者・婦人会へのPR

地域包括支援センターの役割を知って頂くため、婦人会役員、老人クラブ役職員、福祉関係職等を対象に講演会、普及広報活動を実施

開催日	曜日	対象者	参加人数
平成19年4月11日	水	婦人会役員	32人
平成19年4月19日	木	いいたて福祉会職員	40人
平成19年4月26日	水	村老人クラブ役職員	66人
平成19年6月22日	金	高齢者一人暮らし会食会参加者	35人
平成19年7月20日	金	村老人クラブ女性部	50人
平成19年7月23日	月	村老人クラブ女性部	45人
合計		6回開催	268人

③ 地域ネットワーク構築

地域見守り体制の整っている石川町を地域ケア会議のメンバーで視察。その後、民生員の視察研修として石川町を視察して頂いた。少しずつではあるが、地域での見守りのネットワークを作るよう活動し始めました。

《評価と課題》

地域ネットワークの構築を新たに組織化せず、地域ケア会議や民生委員会でを行うようにしていますが、地域ケア会議は、全部の関係機関が出席できないなどにより関係機関の代表としての会議が開けない時もありました。

(2) 総合相談支援業務

業務内容	実数	延べ件数
生活全般に関すること	90件	164件
医療及び受診に関すること	25件	41件
介護及び制度に関すること	123件	281件
社会保障制度に関すること	6件	6件
その他の相談及び対応	100件	222件
合計	344件	714件

《評価と課題》

① 地域包括支援センターのPR

介護教室を開催することにより、昨年度よりは包括支援センターの役割等を知って頂ける方が増えました。しかし、まだまだ当センターの役割についてのPR不足があり、村民の方が直ぐに相談できる状況になっていないため、引き続きPRをして行かなければならない。

② 高齢者の実態把握

包括支援センターへの情報提供は、在宅介護支援センター、民生委員からの情報が多かった。情報提供があったらすぐ対応できるよう、訪問等をしたため連携は良かったと思う。

また、二人暮らしの方の実態把握をしましたが、元気で過ごしている方が多く訪問時不在の方も多かった。その反面、地域の行事にも出られない、出ない二人暮らしの人たちが46%もありました。閉じこもり予防の観点からも村健康福祉課との連携を密にし、特定高齢者把握事業とも兼ね合わせ対策を講ずる必要がある。

2. 権利擁護業務

高齢者が地域生活に困難をきたした場合には、各関係機関と連絡調整を密にし、地域において尊厳のある生活を維持し、安心して生活を行なうことができるように支援することを目指し活動している。

今年度は、居宅介護支援事業所、駐在所との連携により財産、金品管理、一人暮らしの交通安全等について緊急地域ケア会議を開きながら行ってきた。

業 務 内 容	実 数	延べ件数
財産、金品管理に関すること	1件	10件
合 計	1件	10件

《評価と課題》

緊急時には、緊急地域ケア会議を開催しながら対応を図ったためスムーズな対応となった。

3. 包括的、継続的ケアマネジメント支援

地域における包括的・継続的なケアを実施するために、地域ケア会議を主軸として関係機関との連携体制を築いてきた。

(1) 地域ケア会議 月1回開催 臨時2回

検 討 内 容	件 数
家族介護用品給付事業	72件
老人日常生活用具給付事業	4件
高齢者快適住まい助成事業	10件
配食サービス事業	0件
困難事例検討	18件
合 計	104件

(2) 介護支援専門員への相談、個別指導

地域包括支援センターとして、支援困難な事例への指導、助言の業務がある。

今年度は、共に学ぶ視点において学習会を開催した。

事例内容	高齢者を支えるサービスプラン
開催日	平成19年4月19日
講師	南東北病院リハビリテーション科科长 山口和之 先生
参加者	事務長・居宅支援事業所・ヘルパーステーション・包括支援センター 特養・デイサービス・村健康係

困難事例研究会

事例内容	困難事例
開催日	11月12日
参加者	居宅支援事業所

《評価と課題》

- ① 地域ケア会議においては、給付事業等の決議事項が多い。

困難事例等継続的に検討できる体制を築くために、その都度困難事例等は臨時の地域ケア会議を開催している。

- ② 介護支援専門員への相談、個別指導においては、共に学習検討してゆく姿勢で困難事例が出たときには、夕方5時頃からその都度事例研究会を開催することに事業所と相談してきた。また、事業所が隣接しているため困難事例が出たときには、直ぐに話し合っている。

4. 介護予防ケアマネジメント業務

地域の高齢者が、住みなれた地域で安心して生活を継続できるように、本人ができることはできる限り本人が行うことを基本として、ケアマネジメントを行ってきた。

(1) 要支援1、2のケアマネジメント

	継続登録者	新規登録者	契約解約者	請求者
4月	27人	5人	0人	32人
5月	32人	3人	0人	35人
6月	33人	0人	0人	33人
7月	33人	1人	0人	34人
8月	33人	3人	0人	36人
9月	34人	3人	0人	37人
10月	38人	6人	0人	44人
11月	42人	1人	0人	43人
12月	41人	1人	0人	42人
1月	41人	2人	0人	43人
2月	43人	1人	0人	44人
3月	44人	0人	0人	44人
合計	441人	26人	0人	467人

(2) 特定高齢者のケアマネジメント

介護予防プログラム	参加人数
うつ、閉じこもり予防事業	28人
運動器機能向上事業	34人

《中間評価と課題》

- ① 要支援1・2のケアマネジメントにおいて、本人の意欲を十分に引き出しながらご利用者のできることを多くしていくよう支援してきたが、要支援2になるとデイサービスの料金が要介護1の時の利用よりは高くなるなど不具合が出ている。
- ② 特定高齢者においては、運動やうつ、閉じこもりの2事業のマネジメントを行っているが、両方とも対象者の方だと2回の通知が行き、混乱しているところが見られた。
現在の特定高齢者事業のみでは、検診を受けた方が対象となっているため、残された方をどうするかが課題である。

5. 委託業務

① 家族介護者支援事業（家族介護教室）

平成19年度の家族介護教室は、各地区単位により開催しています。日時・開催場所・内容をできるだけ希望に応じて対応しています。

内容については、「地域包括支援センターの紹介」「軽度の尿失禁の予防と対応（主に高齢者対象）」「介護保険制度の活用について（主に介護者対象）」等を中心に実施しました。また、体験型については、村社会福祉協議会と共催で実施し、「高齢者の食べやすい食事作りや高齢者の疑似体験」を体験することによって、より高齢者を身近に感じ取ってもらうことを目的に実施いたしました。

○ 家族介護教室の開催日と人数等

各地区巡回型（平成19年度）

開催日	曜日	対象者	参加人数	開催日	曜日	対象者	参加人数
4月25日	火	比曽老人クラブ	10人	10月3日	水	草野老人クラブ	23人
7月3日	火	八木沢・芦原婦人会	8人	10月10日	水	宮内老人クラブ	26人
7月24日	火	飯樋町老人クラブ	45人	10月12日	金	関沢婦人会	12人
7月25日	水	長泥老人クラブ	10人	11月15日	木	長泥婦人会	23人
7月25日	水	佐須老人クラブ	17人	1月27日	日	八和木・前田婦人会	7人
7月26日	木	白石老人クラブ	14人	1月29日	火	二枚橋婦人会	9人
8月3日	金	白石婦人会	14人	1月31日	木	比曽婦人会	14人
8月28日	火	藤平老人クラブ	15人	2月3日	日	草野老人会・婦人会	22人
9月1日	金	大倉婦人会	9人	2月4日	月	須萱婦人会	9人
9月20日	木	大倉老人クラブ	8人	2月26日	火	二枚橋老人会	22人
合計			開催	20回	参加者	317人	

体験型（小学生） ボランティアスクール参加者（社会福祉協議会と共催）

開催日	曜日	対象者	参加人数
平成19年8月1日	水	村内の全小学生を対象に開催	12人
平成19年8月7日	火	村内の全小学生を対象に開催	11人
計2回（開催村内の全小学生）			合計 23人

学校訪問型

開催日	曜日	対象者	参加人数
平成19年7月3日	火	飯館中3年生	78人
平成19年11月5日	月	飯館分校2年生（生活福祉コース）	6人
平成19年11月13日	火	飯館分校2年生（生活福祉コース）	7人
計3回開催（中学校1、高等学校2）			合計 91人

② 家族介護者交流事業（介護者のつどい）

平成19年度の介護者交流事業は、対象者に意向確認を行い、介護者のニーズを把握し実施。

○対象者 要介護4・5の方を介護している方

内容としては、介護者のリフレッシュを目的として、介護者の健康チェック、介護相談や相互の意見交換、その後の食事会、入浴等でゆっくりと過ごして頂き、日頃の介護疲れを癒して頂きました。

○事前に、対象者にアンケート用紙により意向確認を行い開催。

開催日 平成20年2月3日（日） 10時から14時までの4時間

参加対象者31名中 10名（男性2名、女性8名）の参加して頂きました。

（昨年度、参加対象者が37名の中での10名（男性1名女性9名(27%)）の参加）

《評価》

例年、講師を招き介護等の勉強会を開催しておりましたが、参加者から、「介護者のつどい」が日帰りのみの開催となり、介護者同士、ゆっくりと交流する時間が少ないとの意見もあり、今回は交流を主に開催しました。

介護経験の浅い方は、実際に介護を行っている先輩から本音のアドバイスに聞き入っていました。一人での介護に弱気になりかけた方などは、もっと苦労している介護のお話に、自分ももっと頑張らないといけないと気持ちを新たに、先輩からの言葉として「もう少しすると介護のコツが分かるから、頑張れ」との励ましの声があるなど、昼食を取りながら介護者同士楽しく過ごして頂きました。

地区のお茶のみ会（介護者のつどいの参加状況）

期 日	対象行政区	参 加 者
2月 4日（月）	佐須	3人 民生員1人
2月 5日（火）	比曾	5人
2月 6日（水）	草野	7人 民生員1人
2月12日（火）	白石・松塚	2人 民生員2人
2月13日（水）	長泥	
2月14日（木）	大倉	
2月15日（金）	伊丹沢	4人
2月18日（月）	前田	5人 民生員1人 区長1人
2月19日（火）	八和木・前田	3人 民生員1人 一般1人
2月20日（水）	宮内	3人 民生員1人
2月21日（木）	二枚橋・須萱	4人 民生員1人
2月22日（金）	蕨平	4人 民生員（1人）
2月25日（月）	関沢	3人 民生員1人
2月26日（火）	飯樋町	
2月27日（水）	深谷	
2月28日（木）	大久保・外内	2人 一般1人
3月 3日（月）	上飯樋	3人
3月 4日（火）	八木沢・芦原	3人 民生員1人
3月 5日（水）	小宮	2人
合 計		53人 民生員11人 区長1人 一般2人

《評価と課題》

きこりで行う介護者の集いには、介護度が低いために参加できない、介護する方がいるため家を離れることができない等という方たちのために、いいたて在宅介護支援センターと共に各地区での介護者のお茶のみ会を開催しました。

介護するうえで困難なことなど、介護している人でなければわからない悩みや相談が話されました。また、参加された方々には、すまいるの会への参加呼びかけもし、介護する者同士の連携を図っていければと思います。

③ 家族介護用品給付事業

要介護3、4、5の在宅介護の方を対象に介護用食器及び紙オムツの給付をしています。介護用食器については、1年間10,000円を限度に、紙オムツについては月額4,000円を限度に給付をしました。

給付内容	給付月	利用者数	給付金額	発行対象者数
紙おむつ	4月	人	0円	44人
	5月	10人	68,000円	44人
	6月	24人	221,000円	46人
	7月	18人	184,000円	42人
	8月	17人	158,000円	43人
	9月	8人	69,000円	45人
	10月	20人	200,000円	46人
	11月	26人	255,000円	46人
	12月	14人	167,000円	47人
	1月	24人	275,000円	50人
	2月	24人	220,000円	55人
	3月	33人	290,000円	55人
合計		218人	2,107,000円	563人

《結果》

平成19年度においては、介護用食器の申請は無く、紙おむつについては、村内各販売店のご協力により、円滑なクーポン券利用が行われています。

④ 地域ケア会議

介護予防・生活支援の観点から、効果的なサービスを総合調整する機能を有する「地域ケア会議」を開催しました。

会議メンバーは、居宅支援事業所、いたて在宅介護支援センター、訪問介護事業所、通所介護事業所、診療所看護師、飯舘村保健福祉課、生涯学習課、村社会福祉協議会、飯舘村地域包括支援センターの幅広い分野からなる16名の構成で検討を行っています。

平成19年度 開催回数：14回 月1回（11月・12月は2回開催）

ケース検討件数	104件
---------	------

検討内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護用品給付	45	0	2	1	1	2	4	6	2	4	3	2	72
老人日常生活用具給付等	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4
高齢者快適住まいづくり助成	0	1	0	0	1	1	1	1	3	0	0	2	10
配食サービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
解決困難ケース検討	1	3	5	0	0	1	0	1	0	3	4	0	18
計	46	5	7	3	3	4	5	8	5	7	7	4	104

《結 果》

様々な要援護者のニーズに対し、各種の保健・福祉サービスなど社会資源を最大限に活用して、自立した生活が送れるような援助ができました。また、生活困難な状態に陥っていると思われるケースについても対応してきました。

《課 題》

援助が必要と思われても本人や家族からのニーズが出されず、問題を問題と考えていないケースや隠れている問題ケースの発見・対応について検討が必要と思われる。

⑤ 各種申請代行

一人暮らし高齢者及び高齢者夫婦世帯等、緊急通報装置の設置が必要と思われる世帯への申請代行を行ってきました。